レッスン：PYR NO.23

テーマ：The Enclavure(＊無知に囲まれていること) の必要性

PYR23/KE05 N0.1/10/04

私たちの姉妹・兄弟たちよ、

スピリット、光、火の子供達よ｡私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

これまでのレッスンでは実存の諸世界におけるアガピについて説明しました。そして実存の諸世界という時、それは物質界のみならず現在のパーソナリティーがLifeの本質を表現していないサイコノエティカル界をも含みます。

勿論、私たちは現在のパーソナリティーがなぜLifeの本質を表現しないのかを知っています。

　その理由とは、現在のパーソナリティーとして、そして無知に囲まれていることによって、各パーソナリティーは創造界において他のいろいろなパーソナリティーから様々な経験を受け取ります。そしてその結果、現在のパーソナリティーはいわゆる個別性を獲得します。もしそうでないなら、私たちは皆私たちの真の本質を現しており、そして経験を得ることができないでしょう。そして勿論、聖なる神の仕事は達成されず、また私たちがここに生きている理由もありません。

　それが私たちが真の本質を現していない理由であり、私たちはそれを達成するために（＊真の本質を現すために）もがき、努力する必要があるのです;もがくとは経験と多くの学びを意味し、徐々に私たちは現在のパーソナリティーをその源、つまりLifeそれ自体へと押し進めるのです。

　それが達成される時、現在のパーソナリティーは自己実現した人となり、自己実現が与えられ、魂（＊Soul)のなかに同化され、勿論後には自己実現した魂はスピリットセルフの中に同化され、そして私たちは神のワンネスの多重性のなかでスピリットセルフ、自己実現したものとなるのです。そのような目的のために、私たちは今ここに生きており、私たちの真の本質を完全に表現していないという限界のなかにいるのです。

　さてアガピという言葉に戻ります。私たちは誰かを愛していると言いますが、しかしアガピ、愛はLifeそれ自体と同じです。真理、アガピ、そしてLifeは実際には一つなのです。

　誰かを愛していると言う時、私たちは相手をその本質を完全に現しているLifeとして愛しているのでしょうか？答えはノーです。それではどのようなアガピを現しているのでしょうか？それはアガピでしょうか、それとも現在のパーソナリティーの気づきのレベルによって異なる何か他のものでしょうか？

　勿論、Lifeと同じであるアガピにはいろいろなレベルがあるわけではありません。それでは気づきのレベルに応じたいろいろなレベルで私たちは一体何を現しているのでしょうか？

　誰かを愛しているというとき、本当に相手にアガピを現しているでしょうか；実際、そこで表現されているのはエロティズムです。エロティズムにはいろいろなレベルがあり、勿論その最も低いレベルはエゴの結果です。誰かを愛するというとき、私たちは相手が自分が望むとおりの人であることを欲しています。あたかもあるがままの相手を好んでいない、または愛していないかのように。私たちは自分の子供を愛していますが、子供が自分が望むような人であって欲しいと願っています。

Page2

これはエゴです。なぜなら高いレベルではエロティズムは、他の人間たちまたは誰か、妻または夫などのパートナーに対する関心、思いやり等を現すからです。そして勿論、お互いに双方がそれを現せば、双方とも幸せに思い、家族も満足します。

　より高次のレベルでは、エロティズムは誰か他の人のために犠牲的に自分を提供することによって表現されます；そして双方がお互いにそのようであれば、例えばカップルなどにおいて、真の幸せが存在します。これが真の幸せをもたらし、他人に対する真の配慮、思いやりとなります。

　以上が実際、これら実存の諸世界において人間が表現しているものであり、そして勿論セックスの表現としてのエロティズムもあります。そしてセックスが真のエロティズムの結果であるなら、それは上から祝福されるものですが、しかし動物的なセックス、セックスのためのセックスで2人の人が行うものはそうではありません。

　ですからエロティズムをセックスと混同しないでください。セックスとは実際それとは異なるものです。しかしもしセックスがエロティズムの結果であるなら、それは別です。残念なことに人間はエロティズムをセックスと結びつけていますが、そうあるべきではありません。エロティズムは異なったレベルの表現としてのアガピであり、それは気づきのレベルの結果です；それは思考・行動、そして情緒の結果です。しかし、2人の人間の間でこのエロティズムの現れがより強くなるとき、それらの人々がより高い気づきのレベルに立っていることを意味します。

　これが私たちが住んでいるこの世界に真の幸福をもたらすものです。一人の人だけにエロティズムを表現するのではなく、地球上の全ての人々に表現し、さらに創造界においても人類のみならず、Lifeのあらゆる形態に対して、自然に対してもエロティズムを表現し、存在し、実在するあらゆるものに対して表現します。なぜなら、存在し実在するものすべてをLifeはサポートしており、私たちはLifeの海のなかで泳いでいるからです。

　そして繰り返しますが、あらゆるものが存在し、実存しているのは、Lifeがそれをサポートし、活性化するからです。そしてLifeがないと思われるようなものにも、そのなかにはLifeがあるのです。

　物質の原子が存在し、実在するのは、その中に動き、活動があるからです。活動がないLifeはありえないし、そのようなものも実在しません。そして勿論、原子のなかには活動があるというリアリティーに関しては、科学もそれを見ており、また科学は物質がエネルギーとなり、エネルギーは物質となり、それは常に変化しているサイクルです。

　だれがそれを行っているのでしょうか？Lifeがそれを行っています。それらすべてはLifeそれ自体によって与えられています。なぜなら、あらゆるものの中にはLifeがあるからです。

　さてアガピに関しては以前のレッスンにおいていくらか分析しました。そしてまた現在のパーソナリティーが啓発へと進んで行くことができるように。Lifeが法則として現在のパーソナリティーに提供しているものに関してもたくさん述べてきました。そして何であれ与えられているものは全ての人の内側にあり、それらは潜在的可能性の様々なサイクルです。

　気づきのレベルに応じて各人はあるサイクルに属しています。そして、それらの各サイクルのなかには他のより小さな法則があり、それらもまた前進していく能力、可能性を提供しています。様々なタイプのピラミッドによって示されていることによって、現在のパーソナリティーはそれらの法則にアプローチできるのです。

　例えば、ピラミッドの一つのタイプとして四面ピラミッドがあり、それは勿論創造界の4つのエレメントを意味していますが、しかしまた肉体がそれによって築かれている4つのエレメントをも意味しています。

　ですから、前に進み、何であれこのサイクルが提供するものを得るためには、これらのエレメントについてワークを行う必要があるでしょうか？多くのレッスンで現在のパーソナリティーは現在のパーソナリティーそれ自身をマスターするために4つのエレメントをマスターする必要があると述べました。私たちはこれら4つのエレメントについて直接ワークするのでしょうか？答えはノーです；他にも2つの法則があり、それは三面ピラミッドと五面ピラミッドです。三面ピラミッドはLifeそれ自体を意味し、この特定のサイクルについてマスターしようとする現在のパーソナリティーがLifeから「得られる」ものを意味します。しかし、それはLifeそれ自体から全てを得るということではなく、この三面ピラミッドによって述べられているものです。そして勿論、大きな四面ピラミッドから四面ピラミッドが提供しているものをマスターすることができるでしょう。

　ワークがスタートできるのは最初のサイクルからではなく、**二番目のサイクルからであり、現在のパーソナリティーによって意識的意識のレベル**まで到達できます。

　ですから、このワークは二番目のサイクルから始まり、どのサイクルまで続くのでしょうか？全てのサイクルにおいて4つのエレメントをマスターすることがあるレベルまで続くと思いますか？答えはイエスですが、現在のパーソナリティーが四番目のサイクルをマスターした時に完了します。ですから、現在のパーソナリティーが四番目のサイクルをマスターしたときに、四面ピラミッドは完了します。

　もう一つ、五面ピラミッドがあり、前に述べたように五面ピラミッドは5つの感覚を意味します…その感覚が真の感覚であろうとも影の感覚であろうとも。真の感覚は主に現在のパーソナリティーが肉体を使用していないときに使われます。それはいつ生じるのでしょうか？眠っている時には、サイコノエティカル体をもつ現在のパーソナリティーが真の5つの感覚だけを使います**。しかし、目覚めていて肉体を使用している時には現在のパーソナリティーは影として影の感覚を使います…真の感覚であるいわゆる超感覚ではなく。**

現在のパーソナリティーは目覚めている時に時々真の五感を使用することがあるでしょうか？あるいはそうと気づかずに継続的に真の五感を使うことがあるでしょうか？答えはイエスです。

考えている時、思考を表現している時、実際には私たちは真の五感を使います；記憶を現す時に真の感覚を使います。ファンタジーを表現するときにも真の感覚を使います。；そして真の感覚を使ってコミュニケーションをする時にはその能力はずっと優れたものとなります；その時私たちは遠く離れた人同士が交流することができ、言語または言葉を使用せずにコミュニケートすることができます。言葉を使用せずに意味を生み出すことができます。

ですから、私たちは将来これらを扱うことになります。私たちは二番目のサイクルにおける助けと共にこれまでのレッスンで扱ったことを続けていきます、なぜなら前にも説明したようにこの惑星の大部分の人間は二番目のサイクルに属しているからです。もちろん、気づきのレベルの差は大きいですが；そこには非常に大きな差があります。このサイクルまたは他のサイクルにおいても、他の人々よりも転生の回数がかなり少ない人々がいます。

　さて、人間がこのサイクルの真ん中あたりにいるか、または始め頃にいるかは私がいうべきことではありません。もちろん、このサイクルをほとんどマスターする寸前にいる人は意識的に生きることができているはずです。なぜなら、意識的に生き始めるということは、この潜在的可能性のサイクルをマスターし終わる近くにいるからです。

　さて全ての真剣な探求者があまり大きな努力をしなくても可能であるべきこと、できるべきこと、それは視覚化（ビジュアライゼーション）です。そして視覚化というとき何を意味しているかは知っていますね：他の人々に、あるいは自分自身に対してさえ有用な何かを視覚化することであり、そこで提供されるものは善、助け、人類にとって真に価値のある何か、あなたにとって重要な有形のもの、あなたの注意を引くもの、あなたのアガピ、あなたの真のエロティズムなどです。

　そのためのたくさんのエクササイズを提供してきました。ある特定の色の視覚化、ある特定の色である人を包む、ある球、色の球体を通じてこのアガピ、このエロティズムを伝えること。これもまた視覚化の能力です。そこで重要なのは意志だけではなく、何であれあなたが他人を助けるために送るものを視覚化する能力です。

　ですから、視覚化は非常に重要です；何であれあなたが築きたいと願うことを視覚化すること：例えば四面ピラミッド、三面および五面ピラミッドを築き、見ることができること。そして後には一面ピラミッドつまり回転するピラミッドであり、それは他をマスターした結果得られるものです。

Page4

　回転ピラミッドはあなたの意識がどれだけ広がり、他の人間達を包み抱くことができるか、を意味します。これが一面ピラミッドが意味するものであり、それは他をマスターした結果として得られます；そして勿論、これが生じた時、現在のパーソナリティーはその特定のサイクルをマスターする、あるいはすでにマスターしたことになります。

　ですから、様々なサイクルがあり、もし現在のパーソナリティーがあるべきようにワークすれば、その現在のパーソナリティーは全ての潜在的可能性を獲得するでしょう。しかし、残念ながら、全てがあるにもかかわらず現在のパーソナリティーは多くの蓋然的可能性のサイクルを経験しつつあります。もちろん、その理由は現在のパーソナリティーが人生の真の価値にフォーカスせずに物質的なことに魅惑されているからです。

　それは私たちが物質的なものすべてを拒否すべきであるということではありません。とんでもないです。私たちは何であれ物質が提供し、人生において生き残るために必要なことを利用すべきです。しかし、すべて節度をもって適度にすべきです。なぜなら物質は役立ち、それはネガティブなものではありませんが、それは私たちが良い方法で使うべきものであり、それに魅惑されるべきではありません。

　しかし、何が人生の真の価値だと思いますか？私たちはそのなかで泳いているのに、それに気づきません。それに注意を向けません。それはLifeの海であり、それはアガピそれ自体、真のアガピの海です。そのアガピには様々なレベルはありません。ひとつだけです。アガピは一つです。アガピはLifeであり、Lifeはまた真理であり、絶対的真理です。二つの異なった真理などありません。

　ですから、私たちはこのことに集中し、Lifeのこの側面にフォーカスし続けます。いいですか、ドアーを開き、Lifeのアベニューにいるあなた自身を見いだすために必要なこと全ては、既にあなた方に与えられているのです。少なくても最初のドアーをあなた方は開くことができるのです。しかし、それをするためには一生懸命にワークする必要あります。

いいですか、一生懸命にワークしなければ、真の価値あるものは何も得られません。人生における全て良いものはハードなワークの結果であるべきで、贈り物、プレゼントとして現在のパーソナリティーに与えられるものは何もありません。それを得るためにワークし、努力すべきなのです。

Q：自己実現した人の気づきについて話しましたが、四番目のサイクルの意味は何ですか？

K：潜在的可能性の四番目のサイクルですが；実際には五つのサイクルがあります。一番目のサイクルはいわゆる本能意識的意識のセルフエピグノシスです。初めて人間として生まれて来る人は動物のように振る舞い、お互いを食べたりします。その後体験、転生の結果として徐々にいわゆる潜在意識的意識のセルフエピグノシスを現し始め、人々は潜在意識的に生きていきます。意識的にではありませんが、以前のようではありません。考えが働き始め、意味、二元性がそれ自体を現し始めます。なぜなら、考えとは二元性の結果以外のなにものでもないからです。考えとは問いと答えが同時に生じることです。そして何かを理解するためには、それを何か他のものと比較する必要があります。比較することができないと、例え何かが目の前にあっても、目の前に見ているものについての意味を得ることができません；それを何か他と比較する必要があるのです。それはものすごいスピードで自動的に行われています；それは勿論五つの感覚の使用を通じて行われます。現在のパーソナリティーはそれに気づいていませんが。

　ですから、1番目、２番目、３番目のサイクルでは現在のパーソナリティーはいわゆる意識的意識のセルフエピグノシスを現し始めます。人間は意識的に生き始めます。；彼らは何が正しく何が間違っているかを知り、自分の表現を変えようとします。勿論、これは次のサイクルに移行できるようになるための準備です。このサイクルにおいては現在のパーソナリティーはそのサイクルを完了すると、五感を完全に意識的に使うことができるようになります。真の感覚であり、今の現れの波動において使用している感覚ではありません；

**遠く離れていても見たり、聞いたりすることができます。**

Page5

**次のサイクルでこれが生じると、現在のパーソナリティーはいわゆる超意識的意識のセルフエピグノシスを現し始め、現在のパーソナリティーはエゴの様々な側面を殺し始めます。**

四番目のサイクルで完全にエゴを除去する手段を持つようになります；勿論、そうなるのは多くの転生を重ねた後のことです。

　潜在的可能性のサイクルというとき、それぞれのサイクルのなかで多くの転生を重ねます。多くの人々はおそらく10または100、または200ぐらいの回数の転生ではないかと考えるようですが、とんでもありません。地球上には何千回という転生を重ね、何百万年も前に地球で初めて生き始めた人々がいます；そして何百万年と言いましたが、何十億年も前かもしれません。大きなトカゲ、大きな恐竜などがいた時代でさえ、人類はこの地上に存在していました。なぜなら、何であれ惑星上にあるものは人類が体験を重ねるためなのです。さもなければ、それ以外の形態の生物が存在し、生きている理由はないからです。

　それはエゴイスティックなことではありません；人間を通じてディバイン（神）は仕事を行うのです。それは勿論神の黙想の結果であり、それは達成されるでしょう。私たちはLifeのあらゆる形態を受け入れる必要があります。なぜなら、説明したように、Lifeは全てのなかにあるからです。しかし、人間はこの創造界において中心となる主な役者なのです。

　ですから、私たちの惑星の年齢は古く、非常に古くからあります、しかし気づきのレベルに関しては、人類の一般的な気づきのレベルはその進化・成長の中間点ぐらいにいます…その方向に向けた真のワークを通じてそのスピードが加速化されることを考慮しても。

Q：人々がある程度高いレベルに到達すると、気づきは加速してより速くなるのでしょうか？

K：ある一つの惑星上で自己実現に到達する人の数が増えれば増えるほど、まだそこまで到達していない人が自己実現するために必要な転生の回数は減ります。なぜなら、自己実現する人の数が多くなるほど、他の人々はそれだけ多く助けられるからです。常にそうですが、最初に自己実現に到達する人が一番大変で困難なものとなります；しかし、最初の人はそのレベルに留まりません、自己実現のレベルに留まらないで、他の人間たちを助けるために自分の波動を下げます。

　レッスンで述べたように、最初に自己実現に到達する人は、一番最後に実存の諸世界の境界を越えて存在の諸世界に入ります。いいですか、話すとこのようになりますが、実際にはそうならないかもしれません。なぜなら、**地上で最後の人が自己実現に到達すると、自己実現した全ての人間はまだ地球にとどまり、自己実現した惑星は創造界でやるべき別の仕事を持つようになるかもしれません。つまり、他の惑星にいる人間達のために行うべき仕事をするでしょう…それがそれ自身の太陽系であろうとある銀河の別の太陽系の惑星、あるいは別の銀河の惑星であろうとも。**

　ですから、**自己実現した人間、つまり永遠のパーソナリティーたちは他の惑星上で不可視のヘルパーとして働くことになるでしょう。**

　問いは「私たちを助けてくれる訪問者がこの地球上にいるのか？」ということですが、答えはイエスであり、いつも存在しています。

***私たちを助けるために他の銀河からやってくる自己実現した人間たちがいます。距離は問題ではありません；距離というものはありません；距離という意味は実際には存在しないのです。時間についても同じことが言えます。全ては永遠の今のなかにいます；そして勿論自己実現した現在のパーソナリティーもです。***

不可視のヘルパーは自由に肉体を物質化します、あるいはより正確に言えば、神のブレーシス（意志）が表現されます。**Lifeは考えません；考えとは現在のパーソナリティーが五感や二元性を使用する間だけのものです。しかし自己実現した現在のパーソナリティーは五感ではなく同調(attunement)を使います。そして勿論Lifeそれ自体は同調さえも使用せず、同化(assimilation)を使います。**

Page6

だれも同化については知りません。自己実現した現在のパーソナリティーでさえもそのような能力はありません。能力はあるかもしれませんが、存在の諸世界に入るために実存の諸世界の境界を越えようとはしません。なぜなら、もしそうすれば、こちら側に戻ってこれないからです。

　同化はLifeそれ自体のためのものです；それは魂のセルフエピグノシスのためのものです。永遠のパーソナリティーが存在の諸世界に入るやいなや、同時にそれはセルフ・ソウルエピグノシス（Self Soul-Epignosis）と同化します。しかし、それは起こりません。なぜなら、自己実現した現在のパーソナリティーには他の人々を助けるという神の仕事があるからです。その惑星自体が自己実現に到達していようとなかろうと、他の人々を助けるという仕事が。自己実現したパーソナリティーは不可視のヘルパーとなって働きます。

Q：一つの惑星が自己実現というポイントに到達したら、自己実現した惑星が進むべきサイクルがあり、さらに進んでいくのでしょうか？

K：自己実現した惑星にはもはやそれ以上の進化はありません；進化というものはありません。自己実現した惑星がやることは他の同胞の人間たちを助けることであり、神の慈悲の仕事を行います。

Q：それではそれが惑星が行う最後のことで、それ以後はないのですか？

K：その後、惑星は非物質化して、自己実現した現在のパーソナリティーたちは全てLifeのスパークと同化します。それは魂のセルフエピグノシスです。しかし、自己実現した魂のセルフエピグノシスが何を「行う」か、私たちにはわかりません。

　これは今でも創造界のなかで起きていますが、数はありません。なぜなら、創造界の天体には数がないからです。今私たちが話しているこの瞬間にさえ、無数の天体がこのような進化を遂げています。私たちの周囲にはテクノロジーで見ることのできるものだけが存在していると思いますか？とんでもないです、それらはほんの微々たるもので、砂のなかの一粒のようなものです…沙漠の砂粒ではありません、例えばサハラ砂漠における砂粒の数とさえ比較できません。沙漠などちっぽけなものです。私が伝えたいことと比べれば、それは非常にちっぽけなものです。ですから数というものはないのです。

　Lifeは全てを包みこむことができます。Lifeのモナド・スパーク(Monad Spark of Life）でさえもそうです…あなたの内側にあってあなたを活性化するスパークでさえも、全てを包みこむことができるのです。全ては私たちの内側にあるのですが、私たちはそれに気づいていないのです。

Q：相互のアガピへと導くことのできるエロティックな関係を持つためには、二人とも同じレベルにいる必要がありますか？それは転生してくる前に決定されているのでしょうか？

K：あなたは誤解しています。エロティズムを現すためにパートナーは必要ありません。エロティズムは全人類に対して表現することができます。しかし、あなたが特定の人にそれを表現したいのなら、その場合には特定の人を見いだす必要があります。

　それが前から決められているか否かは場合によります。私はそれをこうであるということはできません。なぜなら私たちには自由意志があり、自由な動きがあるからです。私たちは何かを持ってきます、例えばたくさんのことを持ってきますが、しかし私たちはそれらを変え、また付け加えることもできます。自由意志があるからです；転生して赤ん坊として生まれた瞬間において法則が命じることがあっても、私たちには送信と受信の周波数を変える能力があります；そしてもし周波数を変えるなら、原因・結果の法則による結果を避けることができます。

EREVNA PYR 23/KE05 N0.1/10/04